

ラケットテニス

《ルール・審判マニュアル》



平成30年10月 制定

柏崎市スポーツ推進委員協議会

ラケットテニスとは

室内で専用のラケットを使ってスポンジボールを打ち合って得点を競うスポーツ。

1. コート・用具

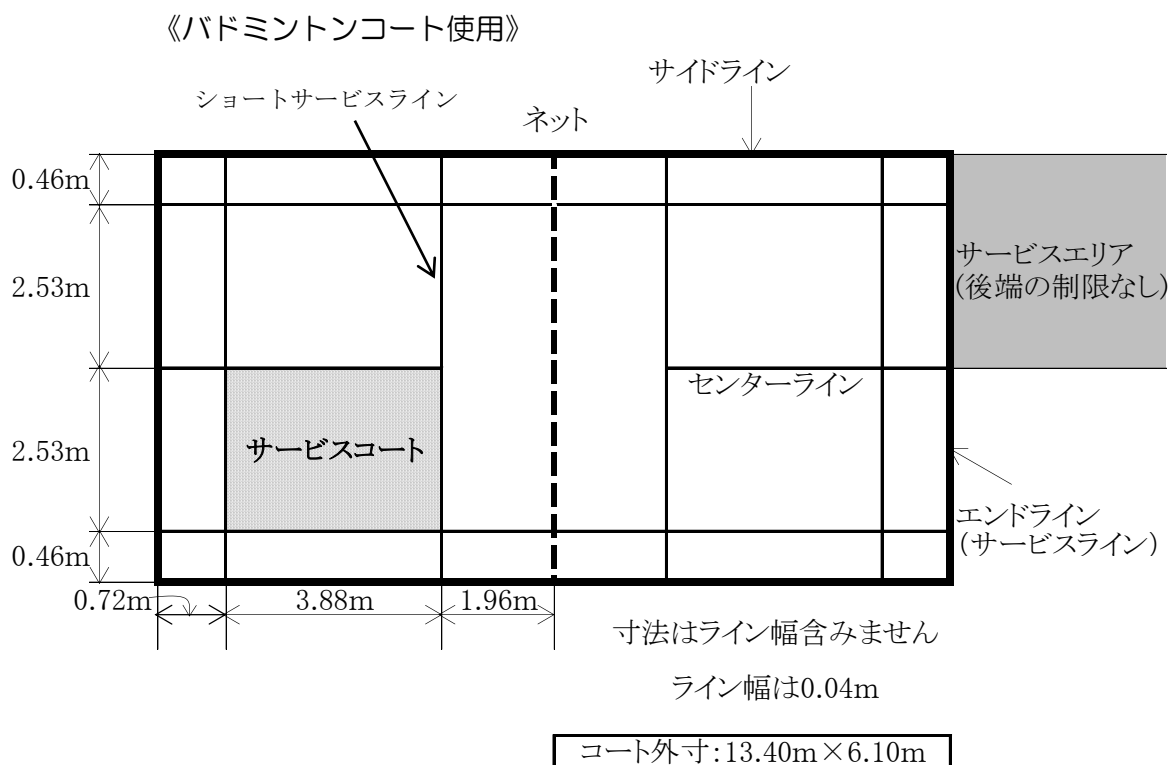
1-1 用具

- ① ラケット：全長 550 mm以下のもの
- ② ボール：専用スポンジボール（KENKO又はMIZUNO 15g ϕ 69 mm）
- ③ ポスト：バドミントン用ポストまたは専用ポスト
- ④ ネット：バドミントン用ネットまたは専用ネット

1-2 コート説明

【コート of 広さ及びライン of 名称】

- ① コートの大きさおよび名称は図のとおりとする。
② ネットの高さは 90 cm とする。



【サービスエリア・サービスコートについて】

上図は、右エンドのデウスサイド(ネットに向かって右側)からサービスする場合があります。

2. 試合前準備

【競技規則】

- ① 「ジャンケン」により、サービス（又はレシーブ）またはコート of のいずれかを選ぶ。
- ② ジャンケンに勝ったチームが、レシーブを選択した場合、ジャンケンに負けたチームは、コートを選択し、サービスを行う。
- ③ コートは奇数ゲーム終了後、交替する。（チェンジコート）
- ④ 相手側から打たれたボールはワンバウンドの後、またはノーバウンド（サービスを除く）でレシーブし、ネットを越えるかネットポストの外側を通過させ、相手側コートに打ち返す。
- ⑤ ネットポストの外側を通過させる場合は、ボールの高さは問わない。ネットの高さより低くても良い。
- ⑥ 打ったボールが直接、天井、壁、照明器具、得点板、審判や審判台に当たったときは打った側の失点となる。ただし、プレー中（サービス時除く）ボールがネットまたはネットポスト触れてもこれらを越えて相手側コートに入ったときは、有効とする。
- ⑦ 体に当たった場合は、当たった側がアウト。
- ⑧ オーバーネットは、いかなる場合でもネットを超えた場合とする。

3. 競技方法

3-1 競技説明

- ① サービスプレーヤーは、審判がゲーム開始の合図もしくはポイントのコールを行った後に、サービスエリアからラケットでボールを打ち（床でバウンドさせたボールを打ってはならない）、直接相手のサービスコートに入れる。
- ② レシーブ側は、サービスコートに入ったボールを、ワンバウンド後にラケットを使い1打で相手コートへ打ち返す。その後は、自陣に入ったボールをノーバウンドかワンバウンド後にラケットを使い1打で相手コートへ打ち返す。
- ③ これを継続できない方の相手側へ得点を与える。

3-2 試合の流れ

- ① 予選（各ブロック）を行った後、各ブロックで順位を決定する。
 - I. 5ゲームマッチで行ない、3ゲーム先取で勝ちとする。
 - II. 1ゲームの勝敗は、4点先取した方を勝ちとする。※3オールになった場合は、以後連続2点先取したチームを勝ちとする。ただし6オールになった場合は、次に1点を取ったチームを勝ちとする。（7－6又は6－7で終了）
- ② 予選（各ブロック）の順位の決め方：
 - I. 勝数が多い順に上位とする。
 - II. 勝敗数が同じ場合、得失ゲーム数の差の大きい方を上位とする。

- Ⅲ. 得失ゲーム数が同じ場合、直接対決での勝者を上位とする。
- Ⅳ. 得失ゲーム数が同じ場合、得失ポイント差の大きい方を上位とする。
- Ⅴ. 得失ポイント数が同じ場合、ジャンケンで勝った方を上位とする。

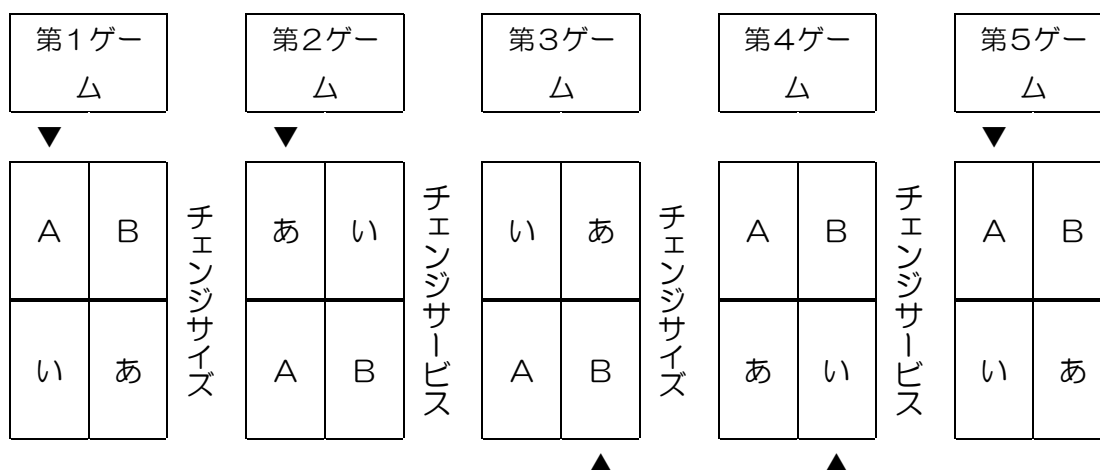
3-3 サービスショットとサービスライン

- ③ サービスは、ネットに向って右側のエンドライン後方（サービスエリア）から始め、右左交互に対角の相手方サービスコート内にボールを打ち込む。
- ④ サービスは、トスしたボールをサービスエリアから直接相手側のサービスコートに入れる。
- ⑤ サービスは1回とし、ネットイン（レット）の場合はやり直す。
※ネットインは、ネットにふれてからサービスコートに落ちた場合を意味する。
※打ち方はオーバー、サイド、アンダーのいずれでも構わない。
- ⑥ 同一人が1ゲームを通してサービスを行う。ダブルスの場合、次のサービスゲームのときはパートナーと交替する。
- ⑦ サービスは1ゲームごとに相手側と交替する。（チェンジサービス）
- ⑧ サービスローテーションは次の図表のとおりとする。

サービス、ポジションのローテーション

※『A・B』対『あ・い』の試合例（▼および▲印はサービス）

サービス順は、A → あ → B → い → A



- ① チェンジサイズ：「エンドのチェンジ」と「サービスのチェンジ」
※サービスプレーヤーは、次ゲームのレシーブ時にアドバンテージサイド（ネットに向かって左側）になります。
- ② ショートサービスライン
※ボレー、スマッシュの際にショートサービスラインを踏む、若しくは踏み越えた場合は相手の得点とする。ただし、ボレー、スマッシュを行った後にショートサー

ビスラインを踏む、踏み越えた場合は違反としない。

4. 反則行為

- ① フットフォルト・・・サービス時にエンドラインを踏む
- ② ネットタッチ・・・ラケット若しくは体がネットに触れる
- ③ ドリブル・・・ボールを2度打つ
- ④ オーバーネット・・・ラケットもしくは身体がネットを超える

～審判の方法～

1. 審判の構成

- ① 主審（1人）：判定を行う。
ジャッジで判りにくかった場合は、副審或いは線審に照会する。
- ② 副審（1人）：主審への情報提供及び、得点管理を行う。
- ③ 線審（2人）：主審への情報提供を行う。（コートの対角に位置する）
- ④ 得点係（2人）：主審から得点が見えやすい場所に位置する。

2. 審判員の役割

- ① ポイントおよびゲームカウントは、サービス側から得点を数える。
- ② インサイドボールまたはアウトサイドボールは落下したところで判定し、ラインに少しでも触れた場合は有効とする。
- ③ 得点コールで「3オール、デュース」以降は、カウントがわからなくなならないように4-3或いは3-4とカウントをコールする。